

る。右岸からナメ床をもった沢を2つ合わせ、5m程のチョックストーン滝を過ぎ、ナメが終わると変化のない沢となる。

下降を開始して1時間程で、沢は伏流となってしまう。露出した川床は、岩がゴロゴロし、所々ヤブがかぶさって歩きづらい。本谷の印象が強かっただけに、尾根1本違うと、沢の様相はこれほどまでに異なるものかと感心する。

沢に水が戻っても、倒木などが沢を堰き止めて相変わらず歩きづらい。石が詰まって急勾配になっているところを降りると、登山道と出合う。ここで下降終了とし、あとは登山道を歩いて帰る。

(記・

[タイム] 下降開始(11:55)→登山道・下降終了(13:30)

細木沢左俣・中俣

1985年9月7日
L

宮里林道ゲートに車を置いて、林道を1時間10分歩くと細木沢出合。出合からは50m奥にある堰堤が見えている。

堰堤を越えると広い河原になり、沢は大きく右に曲がる。右岸に枝沢2本を分けると、沢身は狭まる。出合から40分程

で7m3段滝が現われた。左岸には40m程の高さの岩があり、見事に調和している。

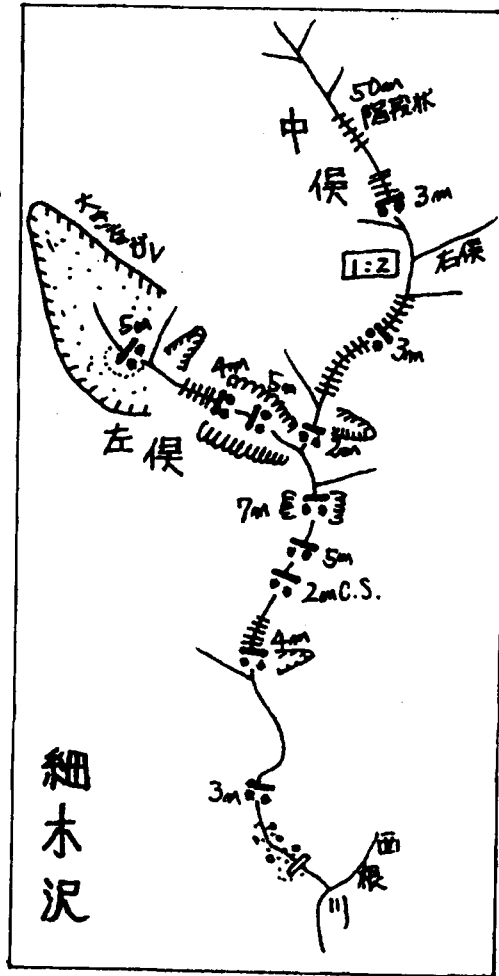
9:15二俣着。左俣に入る。左俣はゴルジュとなり、期待に胸をときめかせる。しかし釜や淵がなく、水量は膝下か足首程度であり、迫りに欠ける。5mおよび4mと続く滝はシャワーで登る。4mの滝を過ぎると視界が広がり、兩岸とも50m以上のガレ場となる。左岸に枝沢を1本分けた後、5mの滝がガレ場の中にか

かる。右岸のガレ場を捲き源頭部をむかえるが、水量がかなり少ないうえ、この先は急傾斜のガレである。登りきるのはかなり危険なので、ここで遡行終了とし、いったん二俣まで戻る。

二俣から今度は右に入る。5分程でナメ床が現われ、15分程ナメを歩く。沢は明るく、適度に小滝があり、ナメの多い楽しい遡行である。10:35右俣出合。中俣に比べて右俣の方が水量が多いが、中俣は田代湿原に突き上げる沢であり、少しでも早く下山しようと、中俣にルートをとる。

20分程歩くと、階段状の50mナメ床があり、庭園のような雰囲気である。やがて水が濁れる。浅いヤブの源頭部を20分登ると踏跡があり、12時ちょうどに太子堂近くの木道に出る。(記)

[タイム] 出合(8:25)→左俣出合(9:15,
9:30)→左俣遡行終了(10:00)
→二俣(10:15)→右俣出合(10:35)→遡行終了(11:25)



湯ノ岐川流域の沢

湯ノ岐川は、西根川と尾根1本ををへだてて同方向に流れ、同じ館岩川に合している。1985年は、この地域の2本の沢を遡行した。

滝 沢

1985年8月17日

L

伯母岐川林道出合に車を置き、林道を歩き始めて20分程で伊勢沢橋に着く。林道はこの橋を渡り、左岸ぞいに続いているが、橋の下にナメ床が見えたので、沢に入ることにする。